

笛吹市立春日居小学校 令和6年（2024年）度 学校経営方針

I 学校教育目標

『心身ともに健康で、人間性豊かな子どもを育てる』

～ めざす子ども像 ～

「**か**んがえる子」

「**す**すんで行動する子」

「**が**んばりやりぬく子」

「**い**たわりの心をもてる子」

II 指導の重点項目

- (1) 知・徳・体の調和を重視し、「生きてはたらく力」を育む適切な教育課程の編制と実施に努める。
- (2) 確かな学力を育むため、やまなしスタンダード等を取り入れた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。
- (3) 集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築き、自己の生き方についての考えを深め、将来の生き方の基礎を培う生徒指導に努める。
- (4) 体育・運動及び健康・安全に関する基礎・基本となる資質や能力の育成に努める。
- (5) 安全・安心を基盤とし、家庭や地域に開かれた信頼される学校づくりに努める。
- (6) 教師の個性・特性を発揮し、特色ある学校づくりに努める。
- (7) 児童が主体的、自律的に活動できる行事等を精選し、言語活動や体験活動を取り入れながら、有用感がもてる健やかな学びを保障していく。
- (8) 特別な支援教育を充実し、一人一人の豊かな学校生活を保障する環境を整える。

III 本年度の具体的な取組

- (1) 「**か**んがえる子」を育成するために 《 知 》
 - ・ 授業に取り組む姿勢（聞き方、話し方、発言の仕方等）を発達段階に応じて徹底する。
 - ・ 「楽しい授業」「わかる授業」を念頭に置きながら、やまなしスタンダード「見方・考え方」を働かせ、学習の過程を重視して、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。
 - ・ 明確な授業のめあてや評価規準や評価方法を教師と児童が共有し、学習状況を的確に捉え、授業改善及び学習改善につなげることができるようにする。
 - ・ ICTを活用した授業を積極的に行い、効果的な活用事例を積み重ねていく。
 - ・ 「校内研究」や「一校一実践、一人一実践」をはじめ、課題改善に向けた授業研究等、具体的な取組の推進と、その効果の検証と改善に努める。
 - ・ 家庭学習の習慣化のために、一人一台端末を活用した発展的な自主学習をすすめる。
 - ・ 多様な読書活動の推進のために、読み聞かせ・朝読書などの取組を進める。
 - ・ 実験や出前授業など、五感で使った体験活動を積極的に取り入れる。

(2) 「すすんで行動する子」を育成するために 《 徳 》

- ・「自ら考え,行動する」を目標に,学校生活の様々な物事から,児童の自主性を伸ばす。
- ・個々の持つ自己表現能力を高めるための場を設け,進んで表現しようとする態度を育成する。
- ・日常の「あいさつ」を通して,進んで相手と交流する心の育成をめざす。
- ・児童会の行事に明確な目的をもたせ,つながりのある行事を通して,児童の主体的な取組を充実させる。

(3) 「がんばりやりぬく子」を育成するために 《 体 》

- ・基本的生活習慣を重視した子どもたちの健康づくりに努める。
- ・運動の日常化を図るために一校一実践の取り組みなど,一人一人の児童の目標に合わせた取り組みを進める。
- ・体育等で一人あたりの運動量を高め,体を動かすことへの楽しさ,できるようになった喜びが味わえるような授業を展開する。
- ・児童会活動と関わらせた清掃活動の充実に努め,潤いのある美しい環境づくりを推進する。

(4) 「いたわりの心をもてる子」を育成するために 《 徳 》

- ・生活の中でよりよい人間関係をつくることのできるような学級集団をつくる。
- ・学校,学級が,児童にとって自己存在感や充実感を感じ,安心できる居場所にする。
- ・望ましい集団活動の中で,進んで他者と関わり,児童同士の絆づくりができる場や機会を設ける。
- ・「あいさつ,聴き方,言葉遣い」の継続した取組を行う。
- ・児童の「所属感」「自己有用感」を高める取り組みをすすめる。
- ・保幼・小・中学校の連携をより意図的・計画的に推進する。
- ・問題解決や体験的な学習なども取り入れた「考え,議論する」道徳教育を行う。
- ・特別な配慮を必要とする児童にも適切な支援をし,全ての児童が生き生きと学校生活をおくるための体制と環境をつくる。

(5) その他

- ・学年会,主任会,各校内委員会を組織し,学校行事をはじめ,様々な学校生活全般の内容を目的に照らし合わせながら精選をしていく。
- ・教科担任制を積極的に導入し,学年間での児童理解につなげる。
- ・いきいきと児童に向き合える教職員集団をめざし,ICTを効果的に導入するなど,教職員の働き方改革も推進する。